

「ステファノの弁明 1」

2016年03月29日

使徒言行録7章1節～8節。大祭司が、「訴えのとおりか」と尋ねた。そこで、ステファノは言った。「兄弟であり父である皆さん、聞いてください。わたしたちの父アブラハムがメソポタミアにいて、まだハランに住んでいなかったとき、栄光の神が現れ、『あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す土地に行け』と言われました。それで、アブラハムはカルデア人の土地を出て、ハランに住みました。神はアブラハムを、彼の父が死んだ後、ハランから今あなたがたの住んでいる土地にお移しになりましたが、そこでは財産を何もお与えになりませんでした、一步の幅の土地さえも。しかし、そのとき、まだ子供のいなかったアブラハムに対して、『いつかその土地を所有地として与え、死後には子孫たちに相続させる』と約束なされたのです。神はこう言われました。『彼の子孫は、外国に移住し、四百年の間、奴隷にされて虐げられる。』更に、神は言われました。『彼らを奴隷にする国民は、わたしが裁く。その後、彼らはその国から脱出し、この場所でわたしを礼拝する。』そして、神はアブラハムと割礼による契約を結ばれました。こうして、アブラハムはイサクをもうけて八日目に割礼を施し、イサクはヤコブを、ヤコブは十二人の族長をもうけて、それぞれ割礼を施したのです。

ステファノはエルサレム神殿とモーセの律法をないがしろにし、神を冒瀆したと最高法院に訴えられた。大祭司から「訴えのとおりか」と尋問され、「兄弟であり父である皆さん、聞いてください」と弁明を始める。ステファノの弁明はアブラハムからエルサレム神殿を建てたソロモンまでのイスラエルの歴史を綿々と語る。これを語ることによって、神の民イスラエル人としてのアイデンティティに生きている者であることを証明するのである。まず、イスラエル人の父として尊敬されていたアブラハム物語から説き起こす。

ステファノの弁明は創世記の記述とは多少違うが、アブラハムは下記のような人生を送っている。彼はカルデアのウルを出て、カナンに向かい、ハランまで来た。そこで、神から「あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す土地に行け」と命じられた。行き先を知らず、妻サラと甥のロトを連れて神の命令に従って旅立った。アブラハムは神の示す地のカナンで幾多の苦難と試練を受け、失敗と挫折を繰り返すが、将来に望みを託し、神を問いつ続けた求道者である。苦難と挫折の中で、神の真実を知らされ、信仰を豊かに成長させていく。神はアブラハムに「いつかその土地を所有地として与え、死後には子孫たちに相続させる」と、カナンを子孫に与えると約束される。また、神は「彼の子孫は、外国に移住し、四百年の間、奴隷にされて虐げられる」と、エジプトで400年の奴隷生活を強いられると預言された。しかし、「彼らを奴隷にする国民は、わたしが裁く。その後、彼らはその国から脱出し、この場所でわたしを礼拝する」と、エジプトからの解放も預言された。そして、神はアブラハムと割礼による契約を結ばれた。アブラハムは年老いてからイサクをもうけ、8日目に割礼を施した。イサクはヤコブをもうけ、ヤコブは4人の妻から12人の子どもを得て、その子らがイスラエル12部族の基となった。彼らは皆、割礼を施された。アブラハム、イサク、ヤコブの族長史を語っている。

ステファノは割礼を強調しているが、割礼がイスラエル人であることの何よりの証であるからである。彼は先祖の歴史を重要視するイスラエル人であることを訴え、最高法院の議員たちの理解を得、自分の主張へと展開したいのである。